

1 年目

研究の 1 年目の学校研究の概要（取組み）

研究テーマ 自分の考えを 筋道を立てて説明できる子の育成
～学び合いを生かした国語科の授業づくり～

1 研究テーマ設定の理由

学力調査等の結果から、説明や方法を問う記述式の問題に依然として弱い傾向にあることが分かった。また、誤答例から、文章内容を読み取る力や、問われていることを的確に把握して答える力にも課題が見られた。

そこで、指導者が教科の特質に応じた言語活動を明確にするとともに、「いしかわ学びの指針 1 2 カ条」を踏まえながら、根拠や筋道を明確に表現する力や学び合ったことを実践的に生かす力を高める学習活動の充実を図ることとした。1 年目は、国語科を中心に取り組み、自分の考えを説明する力を育成するために上記のような研究テーマを設定した。

2 めざす子ども像

- (1) 根拠をあげて説明できる子
- (2) 大事な言葉を落とさずに説明できる子
- (3) 他の人の考えを比べながら、自分の考えを説明できる子

3 場面の設定

- (1) 場面や意図、条件に則し、記述の中の事実や意見をとらえ、さらに既習の学習や経験、例をあげながら自分の考えを述べる場面の設定
- (2) キーワードを見つける学習やキーワードを使って説明や報告、考えを述べる場面の設定
- (3) 多様な考えが出てくる学習活動を意図的に設定し、自分の考えの立場をはっきりさせたり、考えを変えた理由を説明したりする場面の設定

4 実践（取組）の成果

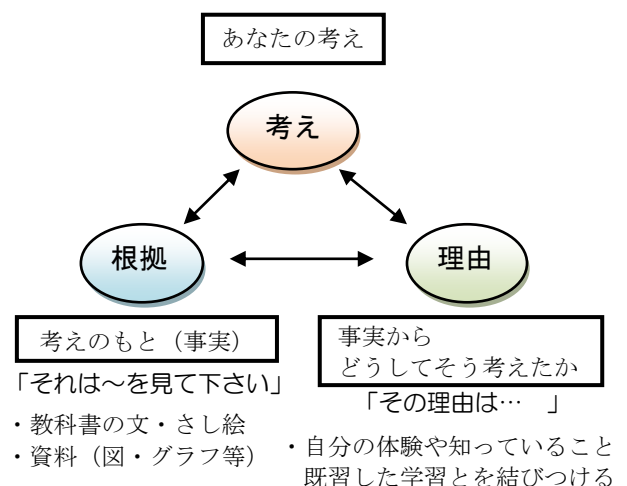
(1) 具体的な取組み及び取組み上の工夫・留意点

① 三角ロジックの手法を用いた説明

筋道を立てて説明するためには、自分が体験したこと、学んで蓄積してきた知識等から、何が関連しているのか、それは説明に必要なか、それが最適なのかを判断し、相手に伝わるように表現しなければならない。これが出来るように、1 年目は右のような三角ロジックの手法を用いた説明に取り組んだ。

【三角形で伝えよう】

「わたしは～だと思います。」



② 発問の工夫

読みの思考を促す発問には、大きく分けて 3 種類あると考えている。

発問A：答えは、探せば文中にはっきりと示されているもの

発問B：答えは、文中にはっきりと示されていないが、文脈から推測したり、複数の読みを繋ぎ合わせたり、内容をまとめたりすることで見えてくるもの

発問C：絶対的な正解はなく、読み手の経験や知識を用いて、根拠を示しながら文章の内容や書きぶりについて自分の考えを述べたり検討したりするもの

この中のCの発問をすることで、三角ロジックで伝える必要性が出てくると考えた。そこで、中心発問に「あなたは、どう考えますか。あなただったら、どうする。」という発問を入れ、児童が自分の考えを三角形で伝えられるようにした。

③「物語文・説明文」の系統表の作成

授業を行う際には、どの段階でどのような言語に関する知識や技能を身に付けさせるのか、つけたい力を明確にして、系統的に基礎的・基本的事項の定着を図らなければならない。

そこで、「単元を貫く言語活動」を明確に位置づけ、系統性を踏まえての単元全体を見通した授業構想を立てることができるように、国語科の「読むこと」に関する「物語文・説明文」の系統表を作成した。

※項目は、「ねらい」をはじめ、「5つの言語意識」「学ばせたいこと」「意識させるキーワード」「学習用語」「文章構成」「読書との関連」等である。

物語文・説明文系統表

【 説明文教材の系統表 】 高学年				
学年	1 学期	2 学期	3 学期	
単元	筆者の考えを伝えよう。自分の考えを伝えよう。	説明のしかたについて考えよう。	自分の考えを明確にし伝えよう。	文章の力
教材名	「見立てる/生き物は円形だ」	「天気を予想する」	「ゆるやかにつながるインターネット」	「て」
ねらい	読書を通して自分の考えを明確にし伝えよう。筆者の考えや文章の書き方についての感想を伝え、自分の考えを広げよう。	読書を通して自分の考えを明確にし伝えよう。筆者の考えや文章の書き方についての感想を伝え、自分の考えを広げよう。	読書を通して自分の考えを明確にし伝えよう。筆者の考えや文章の書き方についての感想を伝え、自分の考えを広げよう。	読書の楽しさや面白さを伝えよう。
単元を貫く言語活動	筆者の考えを伝えよう。自分の考えを伝えよう。	読書を通して自分の考えを明確にし伝えよう。筆者の考えや文章の書き方についての感想を伝え、自分の考えを広げよう。	読書を通して自分の考えを明確にし伝えよう。筆者の考えや文章の書き方についての感想を伝え、自分の考えを広げよう。	読書の楽しさや面白さを伝えよう。
狙い	学級のみんなに	4年生に	学級のみんなに	学級のみんなに
目的	筆者の考えについて、感想をもち、自分の考えを広げよう。	読書を通して自分の考えを明確にし伝えよう。筆者の考えや文章の書き方についての感想を伝え、自分の考えを広げよう。	読書を通して自分の考えを明確にし伝えよう。筆者の考えや文章の書き方についての感想を伝え、自分の考えを広げよう。	読書の楽しさや面白さを伝えよう。
方法	話し合いで	アイディアマップで	話し合いで	読書の楽しさや面白さを伝えよう。
評価	読書を通して自分の考えを明確にし伝えよう。筆者の考えや文章の書き方についての感想を伝え、自分の考えを広げよう。	読書を通して自分の考えを明確にし伝えよう。筆者の考えや文章の書き方についての感想を伝え、自分の考えを広げよう。	読書を通して自分の考えを明確にし伝えよう。筆者の考えや文章の書き方についての感想を伝え、自分の考えを広げよう。	読書の楽しさや面白さを伝えよう。
段階	見立てる 形式読書 形式読書3 形式読書4 形式読書5 形式読書6	見立てる 形式読書 形式読書3 形式読書4 形式読書5 形式読書6	見立てる 形式読書 形式読書3 形式読書4 形式読書5 形式読書6	見立てる 形式読書 形式読書3 形式読書4 形式読書5 形式読書6
文章構成	見立てる 形式読書 形式読書3 形式読書4 形式読書5 形式読書6	見立てる 形式読書 形式読書3 形式読書4 形式読書5 形式読書6	見立てる 形式読書 形式読書3 形式読書4 形式読書5 形式読書6	見立てる 形式読書 形式読書3 形式読書4 形式読書5 形式読書6
学習	見立てる 形式読書 形式読書3 形式読書4 形式読書5 形式読書6	見立てる 形式読書 形式読書3 形式読書4 形式読書5 形式読書6	見立てる 形式読書 形式読書3 形式読書4 形式読書5 形式読書6	見立てる 形式読書 形式読書3 形式読書4 形式読書5 形式読書6

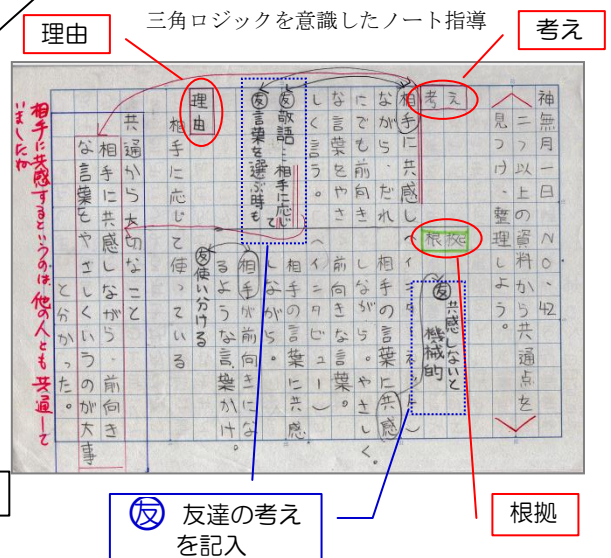
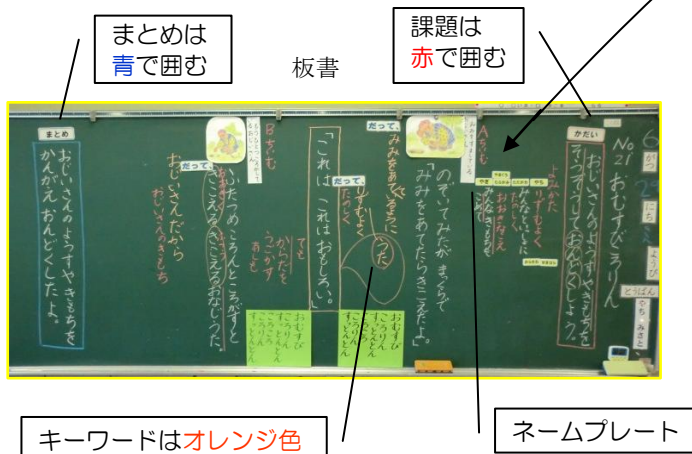
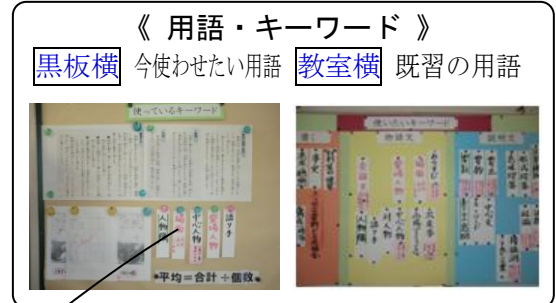
④ 使わせたい用語やキーワード・既習事項の掲示

根拠として使わせたい用語やキーワードはいつでも使えるように教室に掲示した。これらを児童が生かせるように「今使わせたい用語」は黒板横に掲示し、いつでも板書上に移動して活用できるようにした。

⑤ 学び合いが深まるための板書・ノート

板書は、全学年共通に、課題を赤、まとめを青で囲み、キーワードはオレンジで書くようにした。まとめは、キーワードを入れて児童にまとめさせた。また、自分の考えと友だちの考えを比較関連付けができるように「ネームプレートの使用」や「共通点、相違点」が見える板書づくりに取組んだ。

ノートは、「考え・根拠・理由」を明確に表せるように学年に応じた目標を決めて取組を行った。



前学年までに学習した基礎的・基本的な学力（「書く力」「語彙力」「計算力」等）の向上を図る。

*11月は、すず漢字博士コンテスト、12月は、すず漢字博士コンテストの練習問題に取り組み月間とする。

(例) 筋道をたてた文の書き方の学習 事実（根拠）と理由（判断）、考え（意見）を踏まえた話し方の学習

エ 家庭とのコミュニケーションを促進し、家庭と連携した「明日を担う子ども達の約束」の取組。

明日を担う子ども達の約束

⑦ 学校研究の普及啓発への推進

- ・ 2 回の公開授業の実施
- ・ 学校研究リーフレットを奥能登管内すべての小中学校に配付
- ・ 学校ホームページ上に研究内容・資料等の掲載
- ・ 学校研究の啓発に関するアンケートの実施（普及啓発の実態把握）

5 成果と課題

（1）子どもの姿としての成果と課題

（成果）

- ・ 「根拠」や「筋道」をはっきりと意識した思考や説明ができるようになった。
- ・ 国語でつけた説明する力が、他教科でも見られるようになってきた。
- ・ 論理的な学び合いと学習の深まりが見られるようになった。
- ・ 習得した知識を使つての発言ができるようになった。
- ・ 活用力をみる市販テストや評価問題の結果が良くなってきた。

（例）5 年生活用力をみる市販テスト（エクストラテスト）の国語科の結果

	1 学期	2 学期	3 学期
本校 5 年生	6 9 点	7 6 点	8 6 点
正答期待値	7 8 点	7 7 点	8 0 点

（課題）

- ・ ねらいと個人の説明、学び合いとの時間のバランス
- ・ 三角ロジックを使う場面設定
- ・ 国語で身に付けた力の他教科への生かし方
- ・ 今、求められる学力の検証方法

（2） 近隣校への学校研究啓発の成果と課題

（ア）学校研究啓発に関するアンケート結果

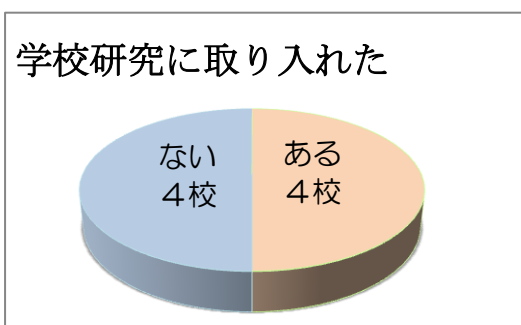
- 実施時期 平成 2 5 年 1 月 8 日～1 7 日
- アンケート依頼校 珠洲市内 小学校 8 校 中学校 4 校
- アンケート回答者 校長 2 名 教頭 2 名 教務 1 名 研究主任 9 名
合計 1 4 名より回答

注）校長、研究主任など 2 名から回答をいただいた学校があり、集計は回答を合わせて 1 校として、取り扱うこととする。

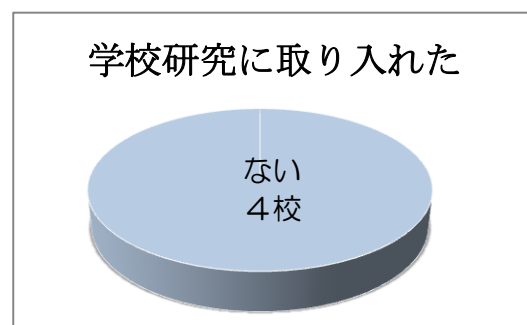
（内容）

- ① 飯田小学校の学校研究を参考にして、貴校の学校研究に取り入れたり、資料を作成したりしたものはありますか？

珠洲市小学校（8 校）

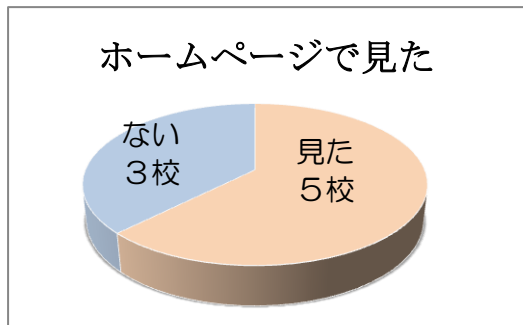


珠洲市中学校（4 校）

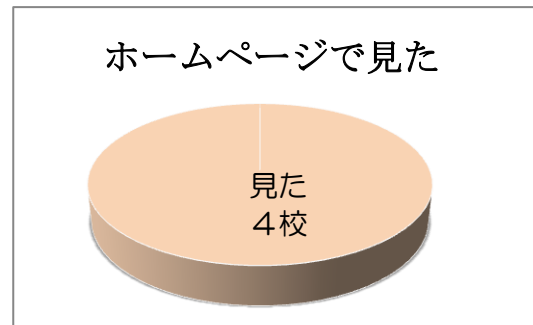







② 飯田小学校のホームページを開いて、研究内容を見たことがありますか？

珠洲市小学校（8校）



珠洲市中学校（4校）

③ 貴校の学校研究で参考になった資料がありますか。 ある ☒ ない ☐

番号	研 究 内 容 / 資 料	小学校（8校） 中学校（4校）											
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
1	第1回授業公開紀要												
2	第2回研究発表会リーフレット 												
3	三角ロジック（三角形で伝えよう）…ノート指導・板書・学習用語												
4	基礎的・基本的な学力定着への取組（スキルタイム等）												
5	校内研修のすすめ方												
6	学習指導案												
7	国語科の「読むこと」の系統表（A3）												
8	教師が意識すること・指導上の留意点（国語科）（A4） 												
9	学習を支える身につけたい力（A4） 												
10	学習のてびき（A4） 												
11	明日を担う子ども達の18の約束（A3） 												
12	「いしかわ学びの指針12か条」と本校研究の関わりと「奥能登スタンダードの活用」について（A3）												
13	活用力をはかる「評価問題」												

本校で作成した資料等は、ホームページにすべて掲載し、いつでも見られるようにしている。

2年目に向けて、3月から公開授業までの学校研究の取組を紹介